

# 越境する沖縄研究と資料Ⅱ

— 「阪巻・宝玲文庫」のデジタル化プロジェクトを通して—

琉球大学附属図書館  
富田千夏



## 本日のトピック

- ▶ 1. 2013年EAJRSパリ会議後の琉球大学附属図書館の取組
- ▶ 2. 阪巻・宝玲文庫の翻刻作業
- ▶ 3. 利用促進の為の取組 職員コラム「きじむんのどうーちゅいむにー」
- ▶ 4. さいごに



## 1-1. 2013年EAJRSパリ会議

- ▶ 琉球処分(廃藩置県)以降の琉球・沖縄関係の資料を取り巻く状況、1950年の開学以降の琉球大学の取組を紹介。
- ▶ 琉球大学附属図書館が公開している、三つのデータベースの紹介

・・・等



## 1-2. 前回会議後の取組

- ▶ 1. 翻刻作業における凡例や作業スタッフについて掲載
- ▶ 2. 英語版サイトの構築
- ▶ 3. スマートフォン・タブレットに対応

## 貴重資料「デジタルアーカイブ」のご紹介

琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ (University of the Ryukyus Library Ryukyu/Okinawa Special Collection Digital Archives)は、琉球・沖縄に関する古文書資料の教育研究資源を、社会的資源として、市民がこれら資料に気軽に親しみ、学習できる環境の整備と資料のデジタル化等を充実させることにより教育・研究の進展と文化資源のグローバルな利用を図ることを目的として、構築されました。従来のデジタルアーカイブの解題(解説)を利用できる等、古文書の知識がないと利用しにくかった資料に気軽に親しめる機能が追加されています。内だけでなく、海外からの利用にも広く対応していく予定です。今後、琉球大学では、本事業を更に推進し、琉球・沖縄世界へ公開することにより、社会貢献のみならず学術研究・教育に資するとともに、世界の琉球・沖縄研究拠点としてご利用ガイドはこちらから

▼ 掲載資料及びデータの順次追加について

▼ 解題・翻刻・現代語訳について

本デジタルアーカイブの解題・翻刻文・現代訳・英訳については、貴重資料の解題作成、古文書資料の翻刻・職員が作成しています。翻刻文は合計4回の確認(翻刻作成および3回の校正)をへています。判読不明のし、なお不明な文字については二の表示をつけています。また、現代語については、英訳担当者を含むスタッフが、翻刻文・現代文・英訳とともに、本学教員のアドバイスを受けています。その他、本デジタルアーカイブの翻刻文に関する凡例は、[こちら](#)をご覧ください。

▼ 掲載資料の活用と原本利用について

▼ 内容に関する問い合わせ

■ 各資料について

## 琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ翻刻文凡例

1. 翻刻文作成の基本姿勢
2. 旧漢字・異体字の取扱について
3. 助字の取扱について
4. 虫損・欠字・見せ消し等の編集上の注記について
5. その他

### 1. 翻刻文作成の基本姿勢

- ①翻刻文データはWeb公開を前提として作成する。
- ②横書き表示とする
- ③機種依存文字・環境依存文字・外字等の使用はしないものとする。

### 2. 旧漢字・異体字の取扱について

旧漢字はなるべくそのまま使用する。WEBで対応できない字である(ばあいは新漢字とする)新漢字と旧漢字が併用されている(ばあいは、原資料に即した字を使用する)異体字は新漢字を使用する。代替できる文字がない場合は、★部首首★で表記する。使用に当たっては統一する  
例: アツカイ→★口愛★

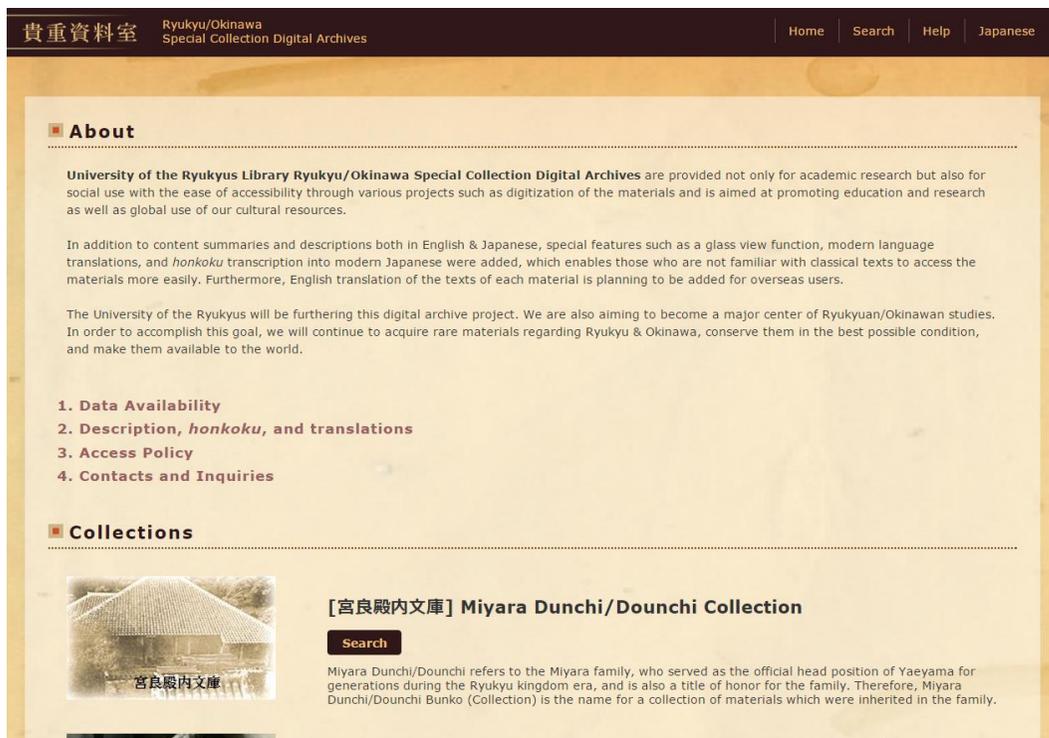
### 3. 助字の取扱について

「シテ(記号のみ)」「ヨリ(記号のみ)」「江」「者」「与」「茂」「ニ」「ニ而」「而ハ」等の助字については\*で左右を囲む事とする  
例:  
シテ→\*して\*  
茂→\*茂\*  
江茂→\*江茂\*  
二而→\*二而\*

### 4. 虫損・欠字・見せ消し等の編集上の注記について

判読不能文字・虫損・欠字・見せ消し等の編集上の注記は以下の通りとする

## 英語版サイトの構築



<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive/index/en>

## スマートフォン・タブレット対応



<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive/s/>



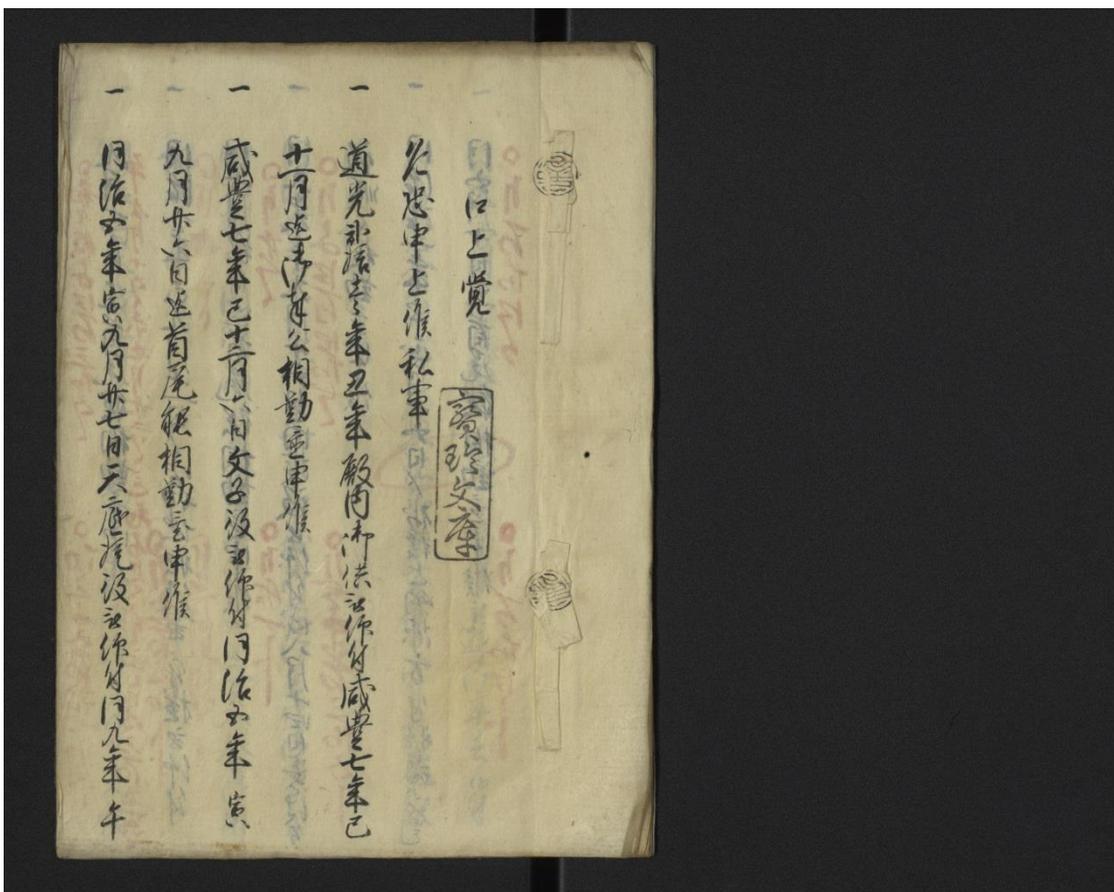
## 2-1. 阪巻・宝玲文庫の翻刻作業

- ▶ 2014年9月以降、阪巻・宝玲文庫のデジタル公開開始
- ▶ 2015年度は翻刻作業が中心
- ▶ 現在3名の非常勤職員が中心となって作業中
  - 資料整理や翻刻、史資料の編纂について経験がある者
- ▶ 1回の翻刻作業＋3回の校正作業(コマ数が少ない場合は回数を減らす場合もある)
  - 判読できない部分は教員に相談することも
- ▶ それでも判読不能の文字がある場合は＝を入れて掲載
  - 外部の方が教えてくれるかも・・・



## 2-2. 翻刻作業の1例：HW630「口上覚」

- ▶ HW630「口上覚」：内容は今帰仁間切(なきじんまぎり・現在の)地方役人11名分の「勤書」
- ▶ 「勤書」(つとめがき)：琉球の地方役人(じかたやくにん)の職務経歴書・昇任申請書
- ▶ 星功(勤務評定)の計算が朱書き記入されていたり、綴じに押印がなされて入る等、当時の形式を伝える貴重な物である
- ▶ 研究者との意見交換 → 思わぬ発見も



口上覚

乍恐申上候私事

一 道光貳拾壹年丑年殿内御供被仰付咸豐七年巳

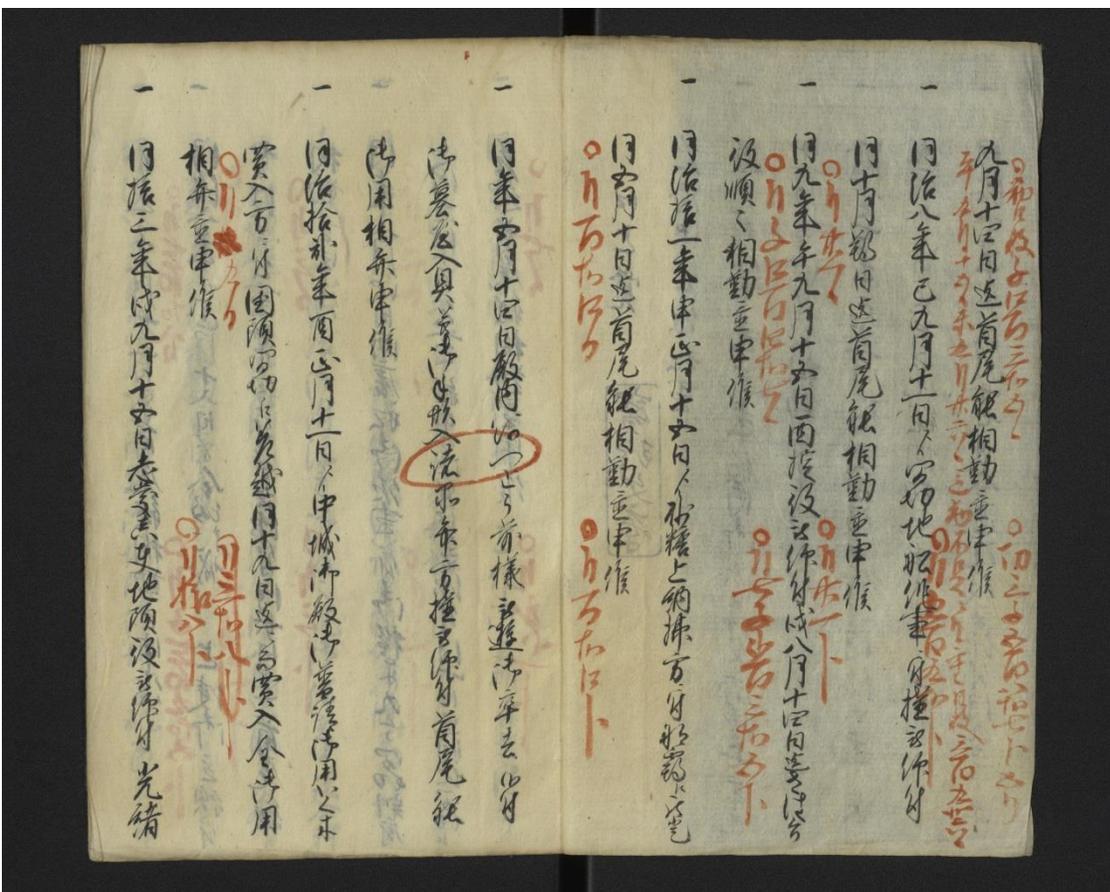
十一月迄御奉公相勤置申候

寅一 咸豐七年巳十二月六日文子役被仰付同治五年

九月廿六日迄首尾能相勤置申候

午一 同治五年寅九月廿七日天底掟役被仰付同九年

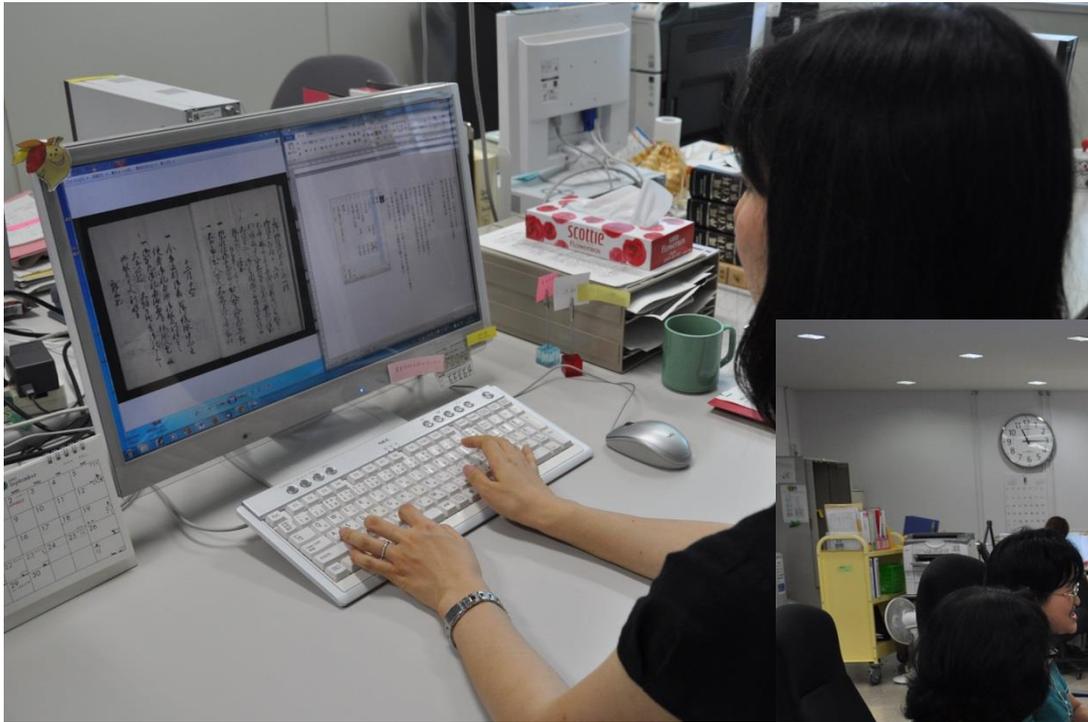
HW630「口上覚」 10冊目 1ページ



HW630「口上覚」 10冊目 2ページ

九月十四日迄首尾能相勤置申候  
 同治八年巳九月十一日\*より\*間切地船作事\*二付\*構被仰付  
 同十月朔日迄首尾能相勤置申候  
 同九年午九月十五日西掟役被仰付戌八月十四日迄さはくり  
 役順々相勤置申候  
 同治拾一年申正月十五日\*より\*砂糖上納払方\*二付\*那覇\*江\*罷

同五月十日迄首尾能相勤置申候  
 同年五月十四日殿内あつとう前様被遊御卒去候付  
 御墓屋入具并御手形入諸品弁方構被仰付首尾能  
 御用相弁申候  
 同治拾貳年酉正月十一日\*より\*中城御殿御普請御用いく木  
 買入方\*二付\*国頭間切\*江\*差越同十九日迄\*二而\*買入金御用  
 相弁置申候  
 同拾三年戌九月十五日志慶真夫地頭役被仰付光緒



翻刻作業の様子



翻刻担当と英訳担当によるミーティング



### 3-1. 利用促進の為の取組 の「どうーちゅー」

- ▶ きじむん
- ▶ どうーちゅー
- ▶ デジタル
- ▶ 進が目
- ▶ 沖縄資料
- ▶ 過年度の
- ▶ 構内の史跡
- ▶ 2015年度

はいさい！ & はいたい！  
ワンネーキジムンヤイベーン！  
(やあ！ ボクきじむん！)



当館のWebコンテンツの利用促進

年中行事、2014年度：琉球大学

妖怪・幽霊

→ 沖縄の古文獻に残る、妖怪や幽霊、その他不思議な話



## 3-2. きじむんのどうーちゅいむに一

- ▶ なるべく、デジタルアーカイブの画像を使うこと。
- ▶ 字数は1000字前後、専門用語は避け、なるべくわかりやすい文面を心がける
- ▶ 掲示場所：当月分は附属図書館内（2015年度からUHM図書館でも）にて掲示。1ヶ月遅れでWebにてバックナンバーも公開中。 <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/?p=9485>
- ▶ 2014年度はコラムとデジタルアーカイブ等のコンテンツの利用方法を紹介した「沖縄資料ガイドブック」を作成。

全体的なテーマに添って、各担当が月毎に執筆。



### きじむんの どろ〜ちゅいむにい〜 第4回 久米村の竜

キーワード：『遺老説伝』 竜 風水

はいさいーい & はいたーい！ きじむんやいびーん。今月は『遺老説伝』にある、ちょっと怖い竜のお話を紹介しますよ！

**泉崎交差点に行ってみよう！**  
那覇市の泉崎交差点の歩道橋から、久米大通りと西消防署通りの間を見下ろすと、竜の顔のような植込みが作られているのをご存知ですか？ 実は、この付近は琉球王国時代に对中国外交を担った「久米村」とよばれる地で、竜と深い関わりがある土地なのです。



久米大通り

西消防署通り

泉崎交差点 (執筆担当撮影)



仲島の大石 (執筆担当撮影)

**久米村の竜**  
『遺老説伝』には、久米村の竜について次のような説話が載っています。  
久米村の南端にある大門（ウフジョー：現在の泉崎交差点近く）の前の土地は竜の頭であり、街の大通り（久米大通り）は竜身であり、仲島の大石（那覇バスターミナル近く）は竜珠である。竜は神聖なものであるため、屍をもって大門を出入りしてはいけない、もし禁を冒せば、竜が怒り、大風を起こし、国の災いとなる。

久米村では、村全体を竜の体に見立てることで土地の気脈(竜脈)の流れを保っていました。『遺老説伝』のこの記事によれば、死体を選んで大門を出入りしてはいけない、もし禁を冒せば竜の怒りに触れ、大風をおこすため、国の災いになるとされていました。そして、この説を信じない者が死体を選んで大門を出入りしたことで大風や飢饉などの災害が起きたことが記されています。

**久米村と竜：風水**  
このお話は、風水と大きな関わりを持っています。風水とは、中国から伝わった思想の一つで、災いを避け幸福を招くために地相を見ることです。久米村人の中には福建にて風水を学び、風水師として活躍した人がいました。彼らは、琉球国内の村落内の地相をみて、植林や墳墓の移転位置の指示など、気脈が流れるよう、よりよい方法をアドバイスしていたのです。島袋源七文庫の『久米村神山里之子親雲上式々村風水御見分日記』等も、久米村人の風水師が羽地間切の真喜屋・稲嶺の二つの村の風水を検分した資料で、植林(抱護林)や墳墓の移転、家畜の繋留等の具体的な風水判断が記されています。



(琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ 島袋源七文庫No.2)

近世琉球の人々にとって風水は村落の発展や災禍を避ける意味でとても重要なものだったんだ。風水をさらに知りたい貴方は参考文献を確認してみてね！(GT)  
参考文献：嘉手納尚徳編『那覇外伝遺老説傳 原文・読み下し』角川書店、1978、窪徳忠編『沖縄の風水』平河出版社、1990  
琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成27年7月1日発行

関連するキーワードを記載する

原文をそのまま引用する事は避け、わかりやすく意識した文を掲載する。

全体の文字数は1000字前後。  
※内容の詰め込みすぎに注意！

デジタルアーカイブの写真をなるべく使用する。資料への直接リンク用のQRコードを作成する場合も



## 4. さいごに・・今後の展望

- ▶ 現在「沖縄地域学リポジトリ」を經由してメタ・データを提供  
→ 今後の共有方法の検討
- ▶ 研究者・学生との協働によるデータ共有  
例えば... → 研究者・学生による研究成果にリンク
- ▶ 広くいろんな方に見て貰える工夫
- ▶ 研究者や学生の研究支援・学習支援としてのコンテンツ作成

・・・等ができれば良いな！

イッペー ニフェーデービタン！  
（ありがとうございました！）

おわり

